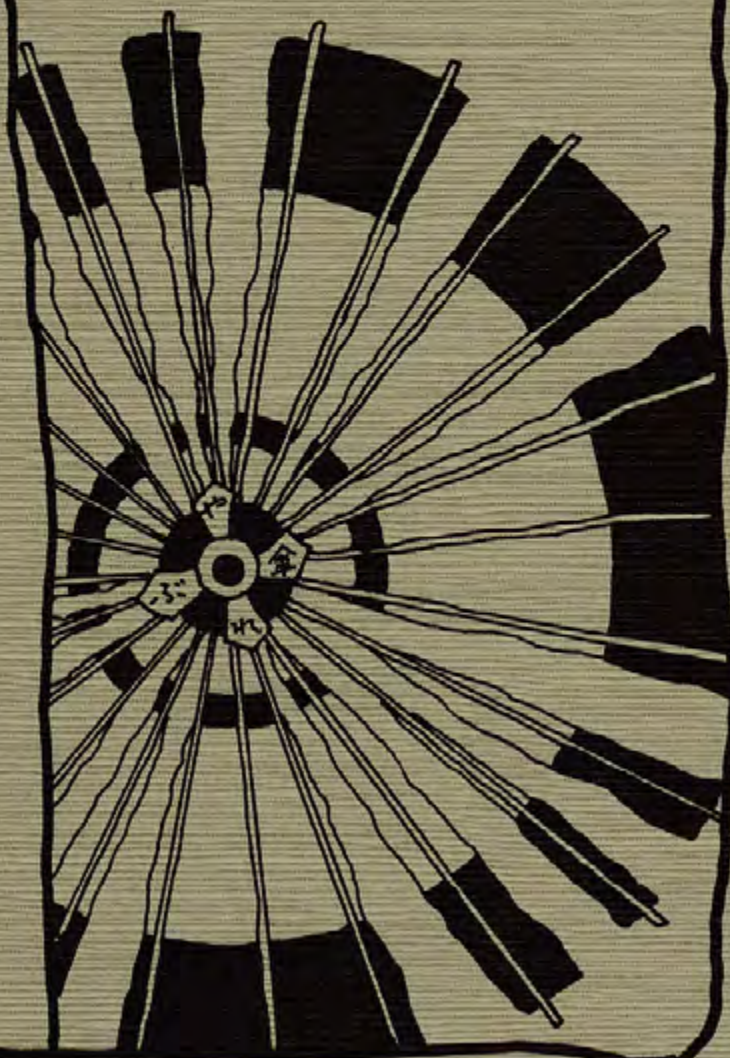


やぶれ傘



一〇四号

二〇一八年十月

天辺に取りついてゐる松手入	根橋宏次
太陽に近づいてゆく雲の峰	きくちきみえ
どぶ川のにほひが少し彼岸花	大島英昭
夏の果て土偶に土の陰 <small>ほと</small> 乳房	青谷小枝
秋没日プロパンガスのボンベ錆び	藤井美晴
女郎花見頃と聞きし寺に寄る	廣瀬雅男
おしろいがスポーツジムへ行く道に	渡邊孝彦
農家への小径に沿つて韭の花	丑久保 勲
街路樹の影に白バイ油照り	瀬島洒望
テニス終へ芋煮会へと繰り出して	安藤久美子
奥座敷に坐り込んでる大西日	有賀昌子
家居する朝に夕べに雪加みて	白石正躬
釣船草一枚岩の橋に風	天野美登里
レシートのだらだら長き残暑かな	小山よる
吊橋の遙かとなれり山女釣り	秋山信行

抄 集 句 傘 大 崎 紀 夫 選

ぎんぎらぎん蟬も転げるぎんぎらぎん	松村光典
新盆の夫のまはりに父母のゐて	小巻若菜
白木槿とりわけ今朝の空青く	齋藤朋子
先陣は女庭師や松手入れ	時田義勝
盛りのよき学食カレー蟬時雨	貫井照子
暑氣払ひ席に見知らぬ人のゐて	萩原久代
竹筒をするつと抜けて水羊羹	森美佐子
水筒はすぐに空つぽ原爆忌	山本久枝
盂蘭盆会古きアルバム囲みけり	湯本 実
送り火や壁に家族の影ゆるる	吉田幸恵
首に巻くタオルはづせぬ大根蒔き	石原健二
からすうりの花みて赤き火星見て	奥田温子
海暑かな砂囊の置いてある戸口	神山市実
モノクロの映画のつづき見る夜長	倉澤節子
端居して備前躰 <small>うすくま</small> 見てゐたり	黒澤次郎

竹の棒

大崎紀夫

苦うるか舟屋ひとつに灯がともし
角曲がる角にとりわけねこじやらし
灼けてゐる板切れと屑塩ビ管
草いきれ川流れゆく竹の棒
水打って間口一間半の店

かまきりの向うに昼の明るさは
芋嵐そろそろ昼の十二時に
蚯蚓鳴くその一匹を釣り餌に
秋の昼吊り革に傘ぶらさがり
落ち口に水垂れてゐる彼岸花
団栗がよく落ちてくる水たまり
川原より水引いてゆく黍あらし

松手入れ

根橋宏次

駅弁の小梅をかじりぬる晩夏
校庭の四隅が暗し盆踊
法師蟬ばかりが鳴いてぬたりけり
デフォルメをされて描かるるラフランス
ほそみちにとんぼがとんでぬたりけり
天辺に取りついてゐる松手入
グラウンドへ運ぶハードル秋の空
このあたりすつかり田水落されて
水音は秋明菊のうしろから
縄掛けて売らるる雑器秋の雲

雲の峰

きくちきみえ

ごきぶりを差すマニキュアの爪まつ赤
雷鳴の三度目四度目夜が明ける
星の近くに夜濯ぎのものを干し
太陽に近づいてゆく雲の峰
とんかつの衣サクサク終戦日
飼ひ猫が膳の枝豆嗅ぎにくる
台風の名残の風を部屋に入れ
美容院前に四五本曼珠沙華
物干しの鉢の辺りの鉦叩
こほろぎのこちら見てゐるやうに鳴く

カンナ

大島英昭

竹藪の向うのどこかつくつくし
空つぽの犬小屋カンナ咲きにけり
一台が出てゆく盆のバス溜まり
葛の花遠くにひかる水たまり
お稲荷が川のほとりにうろこ雲
まん丸な団栗落ちてきたところ
庭先に空の鶏小屋花カンナ
腕に傘提げて秋野をぶらぶらす
駐車場奥は木立にいわし雲
どぶ川のにほひが少し彼岸花

夏の果て

青谷小枝

ユーカーリの樹皮のひらひらハンモック
明け易の汀の潮に下駄のまま
夏の果て土偶に土の陰ほと乳房
浅草のはうからやつて来る夕立
吹く風の中にひとすぢ秋の風
震災忌地下鉄口の止水板
秋夕焼島より見えて島三つ
あのあたり雨降つてゐる秋の海
黒ぶだう夜を分厚きミステリー
雨宿りしてゐて近き鉦叩

女郎花

廣瀬雅男

裾野より山の暮れゆくつくつくし
おしろいの咲いて空きある駐車場
際立ちて遠富士見ゆる台風過
女郎花見頃と聞きし寺に寄る
大方は倒れしままに女郎花
萩の咲く小さき社を詣でけり
荒川に丸ごと・浮かぶ望の月
芋の葉に雨後の日差しと風来る
おにやんま追ふおにやんま山の池
富士塚の天辺に見る鰯雲

錆

藤井美晴

街 白く照り 耳鳴りと 蟬のこゑ
つづれさせ 背伸びして 蚊帳吊りしこと
初秋の日差しが オットセイの背に
マロニエに 秋の初めの日照り 雨
放庇虫爪にて 弾きとばしけり
葉鶏頭 初めて 下りた 駅の 昼
秋 没日プロパンガスの ボンベ 錆び
街路樹の 根方 根方に 彼岸花
秋の暮れ 風呂屋の 前の湯の にほひ
木の実 落つ 屋根の トタンの 端に 錆

おしろい

渡邊孝彦

読書用メガネを外す星月夜
おしろいがスポーツジムへ行く道に
秋茄子の隣の畝に野菜屑
丹沢の暮れて唐黍畑かな
秋の潮山の斜面に墓並び
「爺杉」は凶抜けて高く赤とんぼ
散髪でさつぱりとする野分後
ベランダで遊ぶ子の影ちちろ虫
孫のこゑずつと先行く秋の山
墓所へ行く道に踏んづけ新胡桃

菫の花

丑久保勲

帰りきし八方尾根のケルンより
花筒に造花一本かき氷
手拭の生地貼つてある団扇かな
甘酒でひと息いれる午後三時
吹きあがる間欠泉や薄紅葉
農家への小径に沿つて菫の花
ヘアピンを曲がるたびごとくななかまど
秋澄んでとんがり屋根の風見鶏
マンションの灯りのまばらなる良夜
文庫本に眼鏡を替へる夜寒かな

油照り

瀬島洒望

真昼間黒揚羽飛ぶ紀尾井坂
夕焼けを来て着水す水上機
日盛りをファントムは基地離陸せり
未明より鳴くみんなに起こさるる
花桔梗活けて個展のミニ画廊
街路樹の影に白バイ油照り
ここからは麻布十番地虫鳴く
浮き沈みしつつ流るる捨て扇
天気雨ハクウンボクは実をつけて
腐葉土に差されしシャベル蚯蚓鳴く

芋煮会

安藤久美子

ヒマラヤ杉撫網の届かぬ蟬ばかり
缶入りの備蓄甘酒冷やし飲む
秋蝶の姿ちらりと見かけしが
秋暑しマネキンの服試着して
うろこ雲小型循環バスが来る
旅先のいつか来た道薄紅葉
秋日差し埃の目立つコンセント
草臥れて石に休めば秋茜
藻屑寄る秋の海辺の流木に
テニス終へ芋煮会へと繰り出して

大西日

有賀昌子

奥座敷に坐り込んでる大西日
バスタオルですつぽり受ける裸子を
遠花火ななめ読みする文庫本
盆の月地唄に低い節まはし
ソーラン節で踊るサンバや晩夏光
目だか掬ふ水槽に吾が目玉浮く
夏の果鉄の臭ひの操車場
新涼やクラス仲間で喜寿の会
女坂に水音かすか黒揚羽
秋茄子の蒔に人指し指刺され

雪 加

白石正躬

家居する朝に夕べに雪加ゐて
かなかなやトタンの屋根で鳥跳ね
浮雲が陽をさへぎゐる女郎花
駅降りてさつさと歩く秋早
川沿ひに秋の気配の雲浮いて
川風は糸のころ草の中をぬけ
階段の下から山の秋の風
草陰に栗饅頭に似た茸
田のへりに佇んで聴く落し水
何かしらしてゐるうちに秋の蚊に

釣船草

天野美登里

夏山へガレ場の石を踏みしめて
豆腐屋の槽に日の差す今朝の秋
草刈りのここに案山子をたてようか
釣船草一枚岩の橋に風
縁側にゴムのつつかけ盆休
八朔や手羽先焼の塩を濃く
川縁に木賊の束子捨て置かれ
旅終へて近くにほふ稲の花
梨売りの小屋に手書きの値段票
栗御飯炒胡麻パラリかけてゐる

残 暑

小山よる

味噌汁に对流のある秋の夜
台風の来さう子供は楽しさう
湯の沸きしメロデイの鳴る秋の朝
レシートのだらだら長き残暑かな
秋の宵更地の奥に店明かり
台風来三人だけのヨガレッスン
木の形がいつもと違ふ秋曇
肉焼ける匂ひが道に秋の昼
ぴーと鳴り茸ご飯が炊き上がる
秋時雨ワッフルひとつ買ひ帰る

山女釣り

秋山信行

父の忌に訪ひし古里夏祭り
吊橋の遙かとなれり山女釣り
虫干しの本に挟まれ古はがき
テーブルに妻の居睡る残暑かな
かなかなや竿にテイーシャツ揺るる間の
用済みの支柱をはづす秋の風
秋うらら束で売られる文庫本
祖母の言孫に伝へる盂蘭盆会
漁火のさらなる先にいなびかり
子供らの去りし校庭つくつくし

◇ 11月・12月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
11月	2日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	2日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	6日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	6日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン4	瀬島 孟
	7日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン2	丑久保 勲
	17日(土)	PM2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	24日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	24日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
12月	3日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン4	丑久保 勲
	4日(火)	AM9:00	こなから会	あいパル	WEP編集室
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	瀬島 孟
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	武蔵浦和コミセン	丑久保 勲
	15日(土)	PM2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	16日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	さいたま市・見沼	丑久保 勲
	22日(土)	AM10:00	楽天会	あいパル	廣瀬雅男
	22日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

[注] ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。
 12月7日の「なごみ会」は武蔵浦和コミセン第3集会室です。
 12月16日(日)の吟行。集合は10時。集合場所はJR武蔵野線・東浦和駅改札口。吟行地はさいたま市・見沼。句会場は武蔵浦和コミセン第1集会室。

◎連絡先 瀬島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
 大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856